

生田緑地におけるアオシヤク亜科 Geometrinae の幼虫記録

横田光邦*・三田村瞬*

Records of Geometrinae in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City.

Mitsukuni Yokota* and Shun Mitamura*

はじめに

川崎市ではアオシヤク亜科 Geometrinae 27種が確認されていて、生田緑地ではそのうち23種が見られる(宮内ほか, 2020)。その幼虫期については当地では調べられていないものが多い。アオシヤク亜科は幼虫で越冬する種が多いことから、越冬中の幼虫を主に探索した。オオアヤシヤク *Pachista superans* (Butler, 1878)、ヒメカギバアオシヤク *Mixochlora vittata* (Moore, 1868)、マルモンヒメアオシヤク *Jodis praeurupta* (Butler, 1878)、ヘリグロヒメアオシヤク *Hemithea tritonaria* (Walker, 1863) の4種について幼虫の記録を報告する。

採集記録

(1) オオアヤシヤク *Pachista superans* (Butler, 1878)

[多摩区] 多摩区枳形, 6-IV-2024 ~ 22-XII-2024, 横田光邦・三田村瞬確認

[宮前区] 2exs., 宮前区初山, 4-V-2024, 三田村瞬確認

生田緑地内のあじさい山に植栽されているタムシバ *Magnolia salicifolia* (Siebold & Zucc.) Maxim. (1872) で、新芽に擬態する亜終齢幼虫を4月6日に複数発見した(図1)。

同じ場所を10月3日に探索を行ったところ、葉を摂食する1齢と思われる幼虫が複数確認できた(図2)。



図1. 新芽に擬態するオオアヤシヤクの亜終齢幼虫



図2. オオアヤシヤクの1齢幼虫と食痕

その後、12月22日に再度探索を行ったところ、冬芽に擬態している越冬幼虫4個体を確認した(図3)。

また、生田緑地南遊園のとんもり谷戸に植栽されているコブシ *Magnolia kobus* DC., 1817でも5月4日には終齢幼虫2個体を確認した。



図3. 冬芽に擬態したオオアヤシヤクの越冬幼虫

(2) ヒメカギバアオシヤク *Mixochlora vittata* (Moore, 1868)

[多摩区] 8 exs., 多摩区枳形, 13-X-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 12exs., 多摩区枳形, 3-XI-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 2exs., 多摩区枳形, 22-XII-2024, 横田光邦・三田村瞬確認

生田緑地内の中央広場周辺に植栽されて

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

いるマテバシイ *Lithocarpus edulis* (Makino) Nakai (1916) のひこばえ先端部では越冬幼虫を見つけることができ、筆者らは10月13日に合計8個体を確認した(図4)。

また、民家園内に植栽されているアラカシ *Quercus glauca* Thunb. (1784) の新芽で11月3日に12個体の越冬幼虫を確認、12月22日には七草峠にあるウバメガシ *Quercus phillyreoides* A.Gray (1858) の生垣でも徒長枝の先端に静止する2個体を確認した。



図4. マテバシイのひこばえ先端で静止するヒメカギバアオシヤクの越冬幼虫

(3) マルモンヒメアオシヤク *Jodis praerupta* (Butler, 1878)

[多摩区] 1ex., 多摩区枡形, 26-X-2024, 三田村瞬確認; 1ex., 多摩区枡形, 3-XI-2024, 三田村瞬採集; 2exs., 多摩区枡形, 30-XI-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 1ex., 多摩区枡形, 22-XII-2024, 三田村瞬確認

生田緑地内の七草峠にあるウバメガシの生垣の徒長枝先端で静止する1個体を10月26日に確認した。

中央広場ではシラカシ *Quercus myrsinaefolia* Blume (1850) の殻斗を摂食する1個体(図5)を11月3日に採集し、飼育した。蛹化は葉の表面に尾端を糸で固定するだけの簡素な形態であり、11月25日には羽化した(図7)。

その後、七草峠のウバメガシ生垣で2個体と民家園のアラカシで1個体を11月30日に確認、あじさい山では12月22日にマテバシイのひこばえで1個体を確認した。



図5. 殻斗を摂食するマルモンヒメアオシヤクの終齢幼虫



図6. マルモンヒメアオシヤクの葉上の蛹



図7. 羽化したマルモンヒメアオシヤクの成虫

(4) ヘリグロヒメアオシヤク *Hemithea tritonaria* (Walker, 1863)

[多摩区] 1ex., 多摩区枡形, 7-I-2024, 横田光邦採集

生田緑地内の戸隠不動尊跡地にあるトキワサンザシ *Pyracantha coccinea* M.Roem. (1842) の枝で越冬する幼虫1個体を1月7日に採集した(図8)。寒冷期は摂食するこ

となく枝に留まり、3月より新芽を摂食し始め、5月14日に羽化した。



図 8. ヘリグロヒメアオシヤクの終齢幼虫

おわりに

オオアヤシヤクは神奈川県内では平野部から山地まで広範囲に生息している(中島・坂本, 2018)。平野部では食餌植物であるモクレン科 *Magnoliaceae* 各種(岸田, 2011)が植栽されていることから、住宅地でも幼虫を見つけることは可能である。

ヒメカギバアオシヤクの食餌植物はブナ科 *Fagaceae* のクリ属 *Castanea*、シイ属 *Castanopsis*、マテバシイ属 *Lithocarpus*、コナラ属 *Quercus* の広範囲に及ぶ。カバノキ科 *Betulaceae* ツノハシバミ *Corylus sieboldiana* Blume var. *sieboldiana* (1850) の小枝の皮をかじって飼育した記録もあり(岸田, 2011)、ブナ科でも小枝の先端や樹皮をかじる様子が確認できることから(図 4)、葉だけではなくこれらも餌として利用しているようである。

マルモンヒメアオシヤクを発見した時はシラカシの殻斗をかじっていて、周辺の殻斗もかじられた痕がかなり残っていた。飼育下ではシラカシの葉を良く摂食すること

から、両方を餌として利用しているようである。どんぐりを食べるアオシヤク亜科としては、カギバアオシヤク *Tanaorhinus reciprocata* (Walker, 1861) の越冬幼虫が堅果を食べることが知られている(鈴木ほか, 2024)。また、確認した幼虫はいずれも終齢幼虫と思われ、12月末でも確認できていることから、終齢幼虫のまま越冬するのか調査を継続中である。

ヘリグロヒメアオシヤクは暖地性の種で関東地方以西に分布し(岸田, 2011)、神奈川県平野部には定着していて、川崎市内の記録もある(中島・坂本, 2018)。幼虫は広食性であり、ブナ科やバラ科をはじめ多くの科を摂食することから、バラ科のトキワサンザシも餌として利用する範囲であると考えられる。幼虫越冬を確認したのは初めてであり、枯れ葉も食べる(杉, 1987)ことから、晩秋には落葉樹の枯れ葉を食べているのかもしれない。

引用文献

- 岸田泰則(編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 I. 553 pp., 学研教育出版, 東京.
- 杉繁郎(編), 1987. 日本産蛾類生態図鑑. 453 pp., 講談社, 東京.
- 鈴木知之・横田光邦・筒井学, 2024. 小学館の図鑑 NEO イモムシとケムシ チョウ・ガの幼虫図鑑. 160 pp., 小学館, 東京.
- 中島秀雄・阪本優介, 2018. チョウ目(ガ類). pp. 702-831, *In*: 神奈川県昆虫誌 2018 III. 1038 pp., 神奈川昆虫談話会, 小田原.
- 宮内隆夫・佐野悦子・成田和子・横田光邦・蛾類研究グループ, 2020. 川崎市北西部の蛾類の記録(2015年~2018年) — 1990年からの継続調査 —. 川崎市青少年科学館紀要 第30号: 73-120.